

「本を通して知りたかったこと」

司書になって1年も経たないうちのできごとをひとつ。

年の暮れ、寒い冬の夜でした。ひとりの女性から「脳の本」について質問を受けたので、脳の仕組みについて書かれた本がある棚へご案内しました。しかし、ずいぶん時間がたっても棚で本を凝視していたので、もう少し詳細を伺うことにしました。

「実は・・・」と話してくださったのは、ご自身のお孫さんのことでした。脳について調べていたのはお孫さんのため。本を通して知りたかったのは脳のことではなく、「孫の未来」について。

たしかに「お孫さんの未来」そのものが書いてある本はありません。でも、何か本があるはず。新米でも私は司書です。その方から年越し含めた時間をいただいて、手を尽くしてみることにしました。

自館の先輩司書と相談し、「めりーらいん」に参加する図書館に相談することとしました。詳しい説明の本、将来受けられる支援についてのウェブサイトなど、各館からの回答が私の元に集まってきます。しかも、愛知医科大学医学情報センターから他の小児専門病院の図書館へも照会してもらい、そちらから詳しい図書の回答をいただくこともできました。

回答した後については、どのようになったのか詳細はわかりませんが、少しでも希望がみえたなら、とってやみません。

健康や医療の図書について質問するのは、人によって話しづらいことも場合もあるかと思えます。内容が専門的な場合もあります。しかし、この「めりーらいん」のように図書館は互いに繋がっており、ひとりの図書館員の後ろには様々な図書館員がいたりもします。

どうぞ図書館を活用していただき、必要な図書と出合ってください。医療・投薬相談は受け付けられませんが、私たちは利用者のみなさまと一緒に必要な図書を探します。

(T)